

令和7年度 日本大学豊山女子高等学校・中学校 自己評価票

【本校の目指す学校像】

日本大学の教育理念である「自主創造」に基づき、ものごとを正しく判断できる素直な心と心身共に健康で明るく、思いやりがあり、常に学習を大切にする生徒の育成を目標とする。また、個性の教育を尊重しながらも集団の中でも責任を持って人と協調できる人間に成長させることのできる教育機関を目指す。

【本校の特徴】

本校は、日本大学付属校の中で唯一の女子教育を専門とする高等学校・中学校である。大学進学率の向上はもとより、創造力と人間的な魅力ある人物の育成を目標として、社会で活躍する女性を目指した教育を実践する。今後、更に生徒の可能性を最大限に発展させることができる教育の場となるよう、生徒の教育環境の整備と学習効率の向上に努める。

【令和7年度の重点目標】

教育活動：令和6年度では、定期考査中心の学習評価から学習に取り組む態度の成績評価を全教科・全科目2割と定めた。今後はアクティブ・ラーニング（主体的・対話的で深い学び）の視点に立った授業をできるだけ多く取り入れられるようにしたい。授業の改善や振り返り等を行えるように、教員相互の授業参観等を積極的に呼び掛ける。

学校生活への配慮：「美化意識の向上」清掃方法を再考し、教員と生徒が一緒になって取り組めるようにする。そこから、改めて清掃活動の意義を再確認し、活動を活発化させていく。

課外活動：①令和6年度に引き続き「生徒の主体性や自主性」を育むことができる実効性のある生徒会指導部年間指導計画を策定し、教員が余裕をもって着実に生徒会を指導ができるようにする。

②教員・生徒共に負担感がない適正な部活動実施を促進する。

保健衛生：高校1年次の普通救命講習会は2日間ではなく1日で実施できるようになったので、実施に向けて変更すべき点を進めていく。生徒・教職員含め、少しでも病気や怪我が減るよう、引き続き予防について啓発活動を行っていく。心の問題が大きくなる前に、気軽にカウンセラー室を利用するよう促していく。また、曜日によりカウンセリングの偏りがないよう調整していく。

進路指導：「日本大学への進学者数増加に向けた取組」と「大学入試改革への対応」を重点目標として、より一層強化していく。

図書：あらゆる生徒が進んで読書をする態度を養わせる。図書委員は、積極的に図書館に携わるよう、指導していく。新校舎移転に向けて、準備を進めていく。

広報：説明会や見学会の内容やパワーポイントの作り込み等を更に充実させ、本校の魅力を受験生・保護者にアピールし志願者数増につなげる。ホームページやパンフレットの内容を見直し、更に充実した内容を目指す。コロナ禍以前の取組内容の中から、現状に即したものを復活させていく。

管理運営：（庶務係）出退勤差異を削減する。有給休暇の取得率の向上を図る。

管理運営：（会計係）募集活動や入試改革を継続して行い、より一層の財政基盤の安定を図りながら、新校舎建築に向けて特定目的資産を増やすことで数年先を見据えた経営を行っていく。

管理運営：（管財係）新校舎建築に向けて既存校舎のローリング計画を進める。引き続き省エネルギー・経費削減等に鑑みながら教育環境の充実に向けた施設運営に努める。

〔令和7年度の自己点検・評価結果〕

評価項目	取組目標 (Plan)	取組状況 (Do)	達成状況 (Check)	令和8年度取組方策 (Action)
教育活動	特色・魅力のある教育への取組	<p>「0 to 1」を掲げるアントレプレナーシップ教育を実践している。</p> <p>LADYプログラムは、ハーバード大学生が中心となって企画されたもので、世界で活躍できる女性リーダー育成を目的としている。</p> <p>A特進クラスは、国公立大や難関私立大を目指し、自ら考え行動する力を養うカリキュラムを実施した。</p> <p>N進学クラスは、日本大学への進学を中心に見据え、基礎学力を充実させつつ部活動との両立も図れる環境づくりをした。</p> <p>理数Sクラスは、理数のスペシャリストや医療系を目指し、3年間を通した「理数探究」などの専門教育を行った。</p> <p>多彩な国際交流・生きた英語を学ぶために、1年留学や学期単位のターム留学、ケンブリッジ大学でのサマープログラムを実施した。</p>	A	<p>アントレプレナーシップ教育では、中学校での「数学探究」及び「理科探究」、「卒業発表」や高校での「探究プラットフォーム」を通じ、時間をかけてテーマの決定からプレゼンテーションまで自ら考え行動する力をつけさせる。</p> <p>国際交流・英語教育では、ネイティブ・スピーカーの教員と昼休みや放課後に自由に英会話を楽しめる環境を整えている。また、令和7年度より留学生を受け入れることで、異文化交流ができ、グローバル視点が養われるようになったため、1年留学や学期単位のターム留学を行う生徒の増加を目指す。</p> <p>クラス編成等本校のグランドプランを考え、カリキュラム改正を進めていく。次期学習指導要領を見据えた魅力ある教育になるようにしていく。</p>
	生徒による授業評価アンケート結果に基づく授業改善	<p>教科全体のことは教科主任がアンケート結果を確認して、教科会で取り上げた。教員相互の授業参観を行って、授業改善等状況を把握し、各学期に授業指導報告書を教科・教務担当で確認した。</p>	B	<p>毎週定例の教科会を開いて授業改善等に努め、常によい授業とは何かを模索する。PDCAサイクルが適切に機能するように改善策を考える。日本大学教員相互の授業参観等を積極的に行うように呼び掛ける。</p> <p>日本大学附属高等学校教科研修会についても参加した教員から情報を共有するようにする。</p>
	高大連携教育の取組	<p>「理数探究」、「総合的な探究の時間」及び「探究プラットフォーム」を開講した。高校3年生では、特別編成授業の開講等に取り組んだ。日本大学の教員による授業、講演や日本大学での体験授業を行った。</p>	A	<p>「探究プラットフォーム」を開講し、協力してくれる大学・学部等が増えてきている。</p> <p>理数探究の大学教員による講演については、時期・内容・効果等を検証して依頼する内容を専門的な内容になるようにする。令和8年度の計画では、時期に関して、高校1年生から、2年生で行うように変更した。今後の予定として、日本大学理工学部と連携する教育を考えCSTクラスを検討していく。</p>
学校生活への配慮	いじめ防止のための取組・いじめ事案への適切な対応	<p>ホームルームを中心とした啓発活動を継続した。</p> <p>いじめアンケートを年2回実施し、結果を基に状況確認・聞き取りを行った。</p> <p>いじめ対策委員会を中心に学年でのいじめ問題に対して協力して対応した。</p>	A	<p>「いじめはゆるさない」という姿勢を生徒に伝え、意識の向上に努めていく。</p> <p>いじめ問題だけではなく、様々なハラスメント等の認識を更に高めていくために外部講師を招いて教職員対象の講習会を実施する。</p>
	危機管理マニュアルに基づく安全管理及び危機管理のための取組	<p>避難訓練を年2回実施し、教員・生徒の連携や避難経路の把握を徹底した。</p> <p>ホームルーム等を通じて震災について考</p>	A	<p>新校舎建築を踏まえ、新たな避難経路を検討する。</p> <p>4月中に避難経路の確認が全クラスで行えるように計画する。</p>

評価項目	取組目標 (Plan)	取組状況 (Do)	達成状況 (Check)	令和8年度取組方策 (Action)
		える機会を設けた。		
	校則の見直し等に関する取組	生徒会生徒と連携して、試行期間、振り返りアンケートを実施した。 生徒・教員全体で校則の見直しを検討した。	A	令和7年度取組を基に、令和8年度も生徒と考える機会を設ける。 教員に対してもアンケート等を用い、校則の見直しを検討する。
課外活動	課外活動における自主性・協調性の伸長	生徒会総務役員生徒から生徒会企画書の提案が複数出てきており、その件について、生徒会役員生徒と生徒会指導部教員で共同して企画書について審議した。	B	企画書の内容の向上、その企画が実現可能か引き続き協議をし、結論を出す。
	実効性のある生徒会年間指導計画の策定	行事ごとに作業項目を詳細に出し、運営準備を行っていった。	B	各行事を準備・運営するに当たり作業項目を精査し、その上で、「各行事でどのように生徒を育成していくか」といった具体的な目標を作成する。
進路指導	日本大学進学に向けての取組	令和7年度も日本大学各学部から講師として教員と学生(本校卒業生)を招いて進路説明会を実施した。高校1年生は全員、高校2・3年生は希望者を対象とし、延べ約550名の生徒が参加した。また、日本大学の学部案内を生徒用玄関の2か所に設置・配布など日本大学への進学希望者数増加を目標に取り組むことができている。その結果、12月までに高校3年生の約61%が日本大学進学を決定した。	A	本校で実施する進路説明会の充実と日本大学各学部でのオープンキャンパスや文化祭などへの積極的な参加を促すことで、日本大学への進学希望者の増加を目指す。また、日本大学の各学部と連携をして個別の説明会や学部見学などを計画する。
	大学入試改革への対応	多様化する大学入試制度の情報を進路ガイドダンスや面談、進路通信の発行、掲示板、Classiなどの利用を通して、生徒・保護者に適宜発信し周知することができた。	A	多様化する大学入試制度の情報を生徒・保護者に適宜発信し周知する。模擬試験などを有効活用し、大学進学に必要な学力向上を図る。
保健衛生	カウンセラーとの連携	精神的な不調の生徒が増加しているので、すぐに対応できるよう環境を整えた。	A	学校行事の日時の変更をはじめ、それ以外の理由で変更があれば速やかにカウンセラーに伝える。また、カウンセラーが急きょ欠勤する場合は速やかに生徒・保護者へ伝える。 新規予約が受け付けられるよう、カウンセラーのスケジュールを確認し、連絡を取り合って調整していく。
	保健室・生徒相談室の施設設備への配慮	限られた設備、人材で対応した。	B	新校舎完成までは、現状の施設を使い、他部署と連携をし、安全・衛生面よりよくしていく。
図書	読書教育の推進	図書委員が選定した学級文庫を設置することにより、生徒の読書に対する興味・関心を高めた。多読賞を設定し、貸出し冊数の上位者に表彰を行うことで図書館利用の促進を図った。図書委員によるおすすめ本の選定や図書委員会新聞を発行し、読書教育の発展に貢献した。	B	図書委員の図書の展示・装飾や図書委員会新聞に加えて、カウンター当番を復活させたい。また、ビブリオバトルを開催し、図書委員だけではなく一般生徒も参加してもらい、読書することの楽しさを伝えていく。

評価項目	取組目標 (Plan)	取組状況 (Do)	達成状況 (Check)	令和8年度の取組方策 (Action)
	図書館利用の推進	図書選定委員会の教員には、各教科の要望の受け皿となるように協力を求めた。また、生徒からの希望図書のリクエストカードを図書館に設置した。	B	令和8年度から図書選定委員会ではなく、図書担当者が選定の基礎案を作成し、全教職員がそれに加えて推薦図書を提案する方式へと移行する。今後も生徒に寄り添った図書の選定及び図書資料を継続して整備していく。
	新校舎に向けての図書館の準備	図書の整理・廃棄を行った。そのまま廃棄処理するのではなく、生徒や教職員が自由に持ち帰ることができる形式を採用した。あわせて、新刊購入を促進するため、本の購入方法の見直しを図った。	B	引き続き、新校舎移転に向けて準備を進めていきたい。図書館が調べ学習の拠点となるようにしていきたい。教科書内容や授業に関連する本をそろえ、利用のきっかけを作る。
広報	学校案内・Web サイト・校報誌の充実	本校の教育目標、教育内容、特に新しい取組について工夫を継続する。	A	「自主創造」の精神に基づき、計画的に制作を継続する。学校案内からのブランディングをテーマとして継続性を重視して、本校の教育活動の理解に役立てる。
	志願者数の増加	学校説明会の様々なプログラムを通して、本校の良さをアピールし、参加者の受験率を上げる。	C	学校説明会、外部説明会及び学習塾訪問など年度当初にスケジュール・内容を決定し、効果的に実施していく。来校者一人一人に丁寧で真心を込めた対応を心掛け、志願者数増につなげる。
管理運営	【庶務係】 教職員の適正な勤務体制	出退勤差異の管理をし、差異がある教職員に対しては、個人通知を実施した。 有給休暇取得状況について、教職員に対して通知した。	B	令和6年度は差異の個人通知ができなかった月があったが、令和7年度は毎月全員に通知を行うことができている。しかし、現状の出退勤差異は、横ばい状態であるため、高校教頭を中心に長時間の学校滞在の是正を行っていく。 有給休暇年間5日取得は達成しているが、計画的な取得率の向上を図る。
	【管財係】 施設・設備・校地・校舎の管理	新校舎建築に向けて既存校舎のローリング計画は順調に進んでいる。また、施設の維持・管理に努めながら、省エネルギー・経費削減等に鑑み施設の健全化を行うことができた。	A	新校舎建築に向けた既存校舎のローリング計画については、当初想定していた検討・調整事項の大部分が計画どおり進捗しており、令和8年度以降の工事実施に向けた予算化及び発注準備までおおむね着手できている。また、施設・設備の維持管理についても、計画的な修繕や更新を実施するとともに、省エネルギー及び経費削減を意識した運用を継続し、施設の健全性を安定的に維持する。

〔令和7年度の自己点検・評価結果概要〕

教育活動：特色・魅力のある教育への取組に関しては、様々なことに取り組んでいる。しかしながら、「例年どおり」ということへの見直しが必要である。授業や教育活動についてPDCAサイクルが適切に機能するようになってくために、定例の教科会で話し合うだけでなく、チェックする機能を強化していきたい。理数科理数探究に関しては、委員会等で話し合っているが、様々な行事が多く、整理しているが減らないのが現状である。

学校生活への配慮：いじめ防止、安全管理に関して、令和6年度同様に取り組むことができた。教員全体が協力して取り組める体制ができていた。

課外活動：令和7年度は令和6年度と比較し、生徒会総務役員を中心に主体的な活動をする面が見られた。生徒会指導部の業務内容の洗い出しができた。

保健衛生：高校1年次の普通救命講習会は1日で実施できるようになり、生徒の集中力が増大した。夏季は熱中症対策の予防喚起を行った。また、感染症予防対策の啓発に努めた。

図書：あらゆる生徒が進んで読書に親しむ態度の育成を目標として取り組んだが、日常的に図書館を利用する生徒とそうでない生徒との差は依然として見られ、目標の十分な達成には至ら

なかった。一方で、図書委員を中心とした展示や環境整備等の活動を通して、図書館に関心をもつ生徒は一定数見られるようになり、今後の取組につながる基盤は整いつつあると考えられる。

進路指導：進学に関する情報の発信を適宜行い、進学資料等の見直しを行った。日本大学にはおよそ61%の生徒が進学した。

広報：様々な取組や角度から、本校の特色や取組をアピールしてきたが、一番の目標である「志願者数の増加」に結び付けられていない。

管理運営（庶務係）：出退勤差異の削減は横ばい状態であった。有給休暇年間5日取得は達成できている。

管理運営（会計係）：令和6年度決算に対して令和7年度決算見込みの学生生徒納付金収入は授業料軽減助成金分を除くと減額となった。募集活動及び入試改革を強化するとともに、業務効率化を図ることで超過勤務を減らすなど人件費支出やその他経費も抑制する。なお、収支のバランスは健全である。

管理運営（管財係）：新校舎建築に向けて既存校舎のローリング計画は順調に進んでいる。また、施設の維持・管理に努めながら、省エネルギー・経費削減等に鑑み施設の健全化を行うことができた。

〔令和8年度の重点目標〕

教育活動：カリキュラム改正に当たり、次期学習指導要領を見据えた魅力ある教育づくりを実施する。フルクラウド統合型校務支援システムにより、本来あるべき生徒と向き合う時間を拡充させ、それぞれが持つ資質・能力を高める教育をする。

学校生活への配慮：いじめ防止、安全管理に関して、多様化する問題にも対応できるように更なる情報提供を行う。

課外活動：生徒会活動を通じて、生徒に自主性・協調性・物事をふかんして見る力を育成するため、実効性のある年間指導計画を策定する。

進路指導：「日本大学への進学者数増加に向けた取組」と「新課程入試への対応」を重点目標として、より一層強化していく。

保健衛生：全付属校と本校を比較した場合、多くの項目が若干低めになっているので、低かった項目については教職員に対して意見を求め、改善できるものは改善していく。生徒・教職員の傷病者数の減少を目指し、注意喚起・啓発していく。引き続き、カウンセラーと連絡を取り合い、スケジュールを調整して予約日や時間帯を決めていく。

図書：読書に親しむきっかけを用意し、より多くの生徒が図書館を利用する環境を整える。図書委員が主体的に図書館運営に関わり、読書活動の中心としての役割を果たせるようにする。新校舎移転に向けて準備を進めていく。

広報：学校印刷物、ホームページ、学校説明会、外部説明会、学校・学習塾訪問及びアンケート集計等について、詳細な記録を残し、データを基に入学志願者数が増加するように広報活動を刷新する。また、働き方改革を踏まえ、特に学校説明会等においては、教職員を合理的に配置し、年間を通して計画的に実施するようにする。

管理運営（庶務係）：出退勤差異を削減する。有給休暇の取得率の向上を図る。

管理運営（会計係）：募集活動や入試改革を継続して行い、より一層の財政基盤の安定を図りながら、新校舎建築に向けて特定目的資産を増やすことで数年先を見据えた経営を行っていく。

管理運営（管財係）：新校舎建築については見積合せが完了し建築工事が開始される予定である。計画どおり進行した場合、令和11年3月の竣工となるため、今後は工事工程に応じた既存校舎のローリング計画を適切に実施しつつ、学校全体の安全確保と教育活動への影響最小化を図る。また、引き続き省エネルギー・経費削減等の観点から踏まえた施設管理を推進し、教育環境の質向上に資する設備更新や修繕計画を検討・実施する。特に、新校舎移転を見据えた中長期的視点から、老朽箇所等重点的な点検及び維持管理を行い、安定した学校運営を支える施設体制の構築に努める。

以上